

令和3年度ふくし作文コンクール  
最優秀賞作品

※作文は、原文のまま掲載しています。

## 大好きなじいじ

鱒ヶ沢町立舞戸小学校 3年 千田じんのすけ

去年のあきに大好きだったじいじが天国に行ってしまいました。じいじはいなかだてにすんでいて、毎日会うことが出来なかったけど、小さいころは毎週日曜日に遊びに行っていました。小学生になってからは、夏休みや冬休みに遊びに行っていました。

じいじはぼくが遊びに行くと、かならずだっこをしてくれました。

「どんき大きくなったかな、だっこさせて」

とりょう手を広げてまっています。だっこした後は、にこにこしながら

「大きくなったなあ」

とうれしそうに言ってくれました。

じいじは野球が大好きで、ぼくとパパがキャッチボールすると、近くでにこにこしながらずっと見ていました。



「じん、上手だね。ピッチャーになれるよ。」

とたくさんほめてくれました。

じいじはいつもにこにこしていました。ぼくはそんなじいじが大好きでした。

そんなじいじが病気で入いんしました。さいしょのころはお見まいにも行けたし、ときどきお家にも帰ってきてたから会えたけど、新がたコロナウイルスのせいで会えなくなってしまいました。ずっと会えないままじいじは天国に行ってしまいました。

ぼくが野きゅうチームに入ったのはじいじが天国に行ってからです。じいじにぼくが野きゅうをやっているのを見てほしかったです。

じいじ、いつもにこにこ え顔でやさしくしてくれてありがとう。じいじのやさしい え顔大好きだったよ。今、ぼくはじいじが大好きだった野きゅうをがんばっているよ。たくさんれん習してじいじが言ってくれたピッチャーになれるようにがんばるからね。天国からにこにこしながら見ていてね。



## にじいろのたねのかい

鱒ヶ沢町立舞戸小学校 4年 大高 りお

わたしは、月一回参加している会があります。その会は「にじいろのたね」と言います。この会に参加することになったわけは、弟があまり言葉を話さないからでした。弟が三才のころから、言葉のリハビリにかよっていました。小学校に入学するころにはリハビリもそつぎょうでき、たくさん言葉を話しています。

ある時、役場の保健師さんから、にじいろのたねに、きてみませんかと言われて、参加することになりました。行ってみるとそこには、小さい子どもから大人の人まで、色いろな人たちがいました。その時わたしは、おどろきました。そこには体が不自由そうな人、会話ができない人、走り回る人、大声を上げる人など参加していたのです。でもみんなと、いっしょに遊んでいるうちに楽しくなってきました。それからは、月一回の会に行くのがとても楽しみになりました。友だちもたくさんでき、弟もおしゃべりをするのが上手になりました。

わたしたちのすんでいる世界には、耳が聞こえない人、話すのが上手じゃない人、目が見えない人、体が不自由な人、話が聞けない人など色いろな人がいます。わたしは、そんなしょうがいがある人も、わたしと何もかわらないと思いました。おにごっこをしたり話をしたりして楽しいです。

今はコロナウイルスでにじいろのたねに行けないのでコロナウイルスがおさまったら、みんなと楽しくおにごっこやなわとびをしたいです。



## お年寄りについて思うこと

鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校 1年 島川 万奈

私の祖母は、私が小学生のころ熱を出したときや、学校行事、ピアノの発表会に来てくれました。そんな祖母が、認知症になりました。なぜかという、祖父が亡くなったからです。いつも一緒にいた人がいなくなるのはこんなにも人の心に影響を与えるのだと感じました。祖母は、元気がなくなり毎日泣いていて悲しそうでした。

少しずつ、元気を取り戻すと同じことを言うようになりました。会うたびに、「大きくなったねえ。」「お母さんの背を越したんじゃない?」、「何年生になったの?」と何度も言います。最初は、「何回同じことを言うの」とちょっと嫌でした。

しかし、母は私に、

「何回も同じことを言ってくるけど、うんうんって聞いてあげてね。」と言いました。だから、私は祖母にやさしくすることを心がけています。そうすると、いろいろな話をしてくれて、昔の話も聞けます。祖母は、いろいろなことを忘れるけど祖父と

の思い出は鮮明に残っています。すごいなあと思います。口を開けば、祖父との思い出をうれしそうに話します。それだけ、祖父のことが好きだったんだなあと思ってうれしい気持ちになります。

以前、ニュースでお年寄りへのぎゃくたいを見ました。私は胸が痛くなりました。どうして、お年寄りの立場になって考えてあげないのか、年をとれば誰もが物忘れをしたり、体の動きがにぶくなったりするのにと考えてほしいなと思います。

私は、祖母との関わりを通して、お年寄りに優しくすること、たくさん話を聞いてあげること、困っていたら手を差し伸べてあげることが心掛けていきたいと思いました。また、町やいろいろな所で困っているお年寄りにも同じように接していきます。

